

第 12 回 信州登山案内人試験 [記述問題]

解答例

低体温症は身体を中心体温が 35℃以下の状態を指す。発症後の進行が早いため、顧客が寒気や震えを訴えた時点で対処する。発症した場合、保温だけでは症状の改善は見込めず、加温しなければ症状は進行する。また抹消部の冷たい血液が戻ると心室細動を起こすので体の中から温める必要がある。

予防は、体内の熱源の確保が基本で、行動中、顧客には十分にカロリーを摂取させる。また濡れを防ぎ、風をさえぎる衣服を着用させることも有効である。